

花と緑の京都吟行会(平成31年4月14日：ハートピア京都)

茨木 和生選

特選

哲学者らしき人ゆく花の道

中野 庸二

入選

玉砂利にめり込むかかと花疲れ

常澤 俣子

花馬酔木御苑に多き古き井戸

高岡 敏子

柏手をおほきく打つて朝桜

市野 恵子

さへつりの中へ勤勞奉仕団

池田 華甲

さくら散る咲き疲れたるやうに散る

山田 天

春落葉深き祈りは声もたず

大谷 昌子

芽吹きけり御所の戦火を知る木々も

井村 啓子

花片をこぼさず鳥の移りけり

宇利 和代

どん突きは比翼の塚よ花吹雪

上野山明子

花の雨通り雨よと侮れば

中村与謝男

一万歩二万歩御所の春惜しむ

角野 京子

倒木に花の雨降る御苑かな

亀山利里子

百歩退りて全景の山桜

河村 淑子

こんなに雨こんなに御所のさくら散る

東條 未英

御所に向く位置が正面山桜

渡辺 倫子

前の木の鳥が見てゐる落花かな

土田 善

大石 悦子選

特選

かけまくも御所の地獄の釜蓋

富吉 浩

入選

花冷の閑院宮邸雀口

浅田 光代

千本の松の芯立つ御苑かな

森下久美子

平成の果見えきし松の芯

大山 文子

あをさぎの巢のほのぐらし雨匂ふ

宇野 恭子

平成をこぞりて御所の松の芯

浅田 光代

木の芽雨迎賓館の塀高し

山口 登

今いちど若松に触れ御所を辞す

井村 啓子

花は葉に令和の御所となる仕度

村上 光代

花蜂の蛤御門くぐりゆく

太田 朋

貧にして足るといふ贅茗荷竹

浅川 正

御苑ゆく盲導犬は花を見ず

岩田 素岳

山吹や後の宮の産井跡

服部 友彦

禁闕の内外となき落花かな

和田 悠

潺湲と廻る遣水花の苑

中山 隆

花の雲父苦しまず逝きにけり

光平 朝乃

思ひきや京都御苑にれんげ草

篠原寿美子

浅井 陽子選

特選

さへづりの中へ勤勞奉仕団

池田 華甲

入選

千本の松の芯立つ御苑かな  
柏手をおほきく打つて朝桜  
吉兆の雨と言ふべし花の御所  
声磨ぎて御所の雲雀となりにけり  
墨染の衣をすべる落花かな  
芽吹きけり御所の戦火を知る木々も  
幾つもの巢組みかかげて椋大樹  
洲浜よりすべり出したる花筏  
青き踏む一千年の刻を踏む  
木の芽張る細枝は風のかたちして  
飛んでゐるまだ生きてゐる花吹雪  
日本を確かめる旅桜咲く  
いつの世も松は閑や御所の春  
倒木に花の雨降る御苑かな  
傍らに酸素のボンベ花筵  
改札の中まで入りし落花かな

森下久美子  
市野 恵子  
坂元 軒二  
大谷 昌子  
河崎 尚子  
井村 啓子  
井口やよい  
山田 千鶴  
加藤 草児  
安里 道子  
長石 啓子  
藤田 啓子  
山路 香苗  
亀山利里子  
鈴木 露子  
和田 悠

宮谷 昌代選

特選

春落葉深き祈りは声もたず

大谷 昌子

入選

天水の力貫ふや松の芯

高見 京子

くわんおんに似たる面差し花衣

堀 瞳子

青春をはるかに花の京都かな

伊勢 弘江

あの時も桜散らしの雨の御所

河崎 尚子

鳥の恋雨の小枝を鳴き移り

山内 節子

吉兆の雨と言ふべし花の御所

坂元 軒二

雨降らば雨を力に遅桜

森山 久代

幾つもの巢組みかかけて椋大樹

井口やよい

芽吹きけり御所の戦火を知る木々も

井村 啓子

花片をこぼさず鳥の移りけり

宇利 和代

令和なる御代へ立てたる松の芯

吉田みゆき

御苑ゆく盲導犬は花を見ず

岩田 素岳

金色に芽吹く木のあり朝の雨

井上 綾子

やはらかき風にまつ赤な春落葉

森戸とし子

のべし手にふれて冷たき花万朶

井上 綾子

木々芽吹く新たななる御代祝ぐやうに

藤田 壽穂

前田 攝子選

特選

一万歩二万歩御所の春惜しむ

角野 京子

入選

くわんおんに似たる面差し花衣

堀 瞳子

玉砂利にめり込むかかと花疲れ

常澤 椒子

千年の条里に路地に花の雨

福長 まり

柏手をおほきく打つて朝桜

市野 恵子

花冷や弾痕著き門くぐり

矢吹あさゑ

声磨ぎて御所の雲雀となりにつけり

大谷 昌子

花冷や警備車曲る猿ヶ辻

池田 敏子

風吹くを待ち居る人や花は葉に

田中 澄子

行く春の雲を離さぬ東山

田中 美幸

結ばれしみくじの濡るる遅桜

大塚 章子

花は葉に令和の御所となる仕度

村上 光代

永日の禁裏の衛士の生あくび

岩佐 氏克

行く春の雨となりたる御苑かな

谷野由紀子

祐の井へ十二単を踏みまゐる

福田 嫩子

草の芽の色膨らまし雨の粒

毛利 禮子

傍らに酸素のボンベ花筵

鈴木 露子

才野 洋選

特選

花散らす雨控へ目に降り出せり  
上田よしみ

入選

千本の松の芯立つ御苑かな  
森下久美子

若楓はたと光の差しにけり  
山田 天

さくら散る咲き疲れたるやうに散る  
山田 天

花冷や弾痕著き門くぐり  
矢吹あさる

声磨ぎて御所の雲雀となりけり  
大谷 昌子

咲きみちる京の町家の桜草  
松原千寿子

雨降らば雨を力に遅桜  
森山 久代

咲き残る花に御苑に雨降り来  
宇利 和代

結ばれしみくじの濡るる遅桜  
大塚 章子

春行くや高御座なき京都御所  
藤村 澄子

宮邸の跡に蒲公英所得て  
黒田 淑子

緑立つ内裏に閉ざす門いくつ  
蓮井いく子

日本を確かめる旅桜咲く  
藤田 啓子

糸桜くぐり摂家の古園かな  
田中 春生

いつの世も松は閑や御所の春  
山路 香苗

ひっそりと仙洞御所の遅桜  
森戸とし子

以上